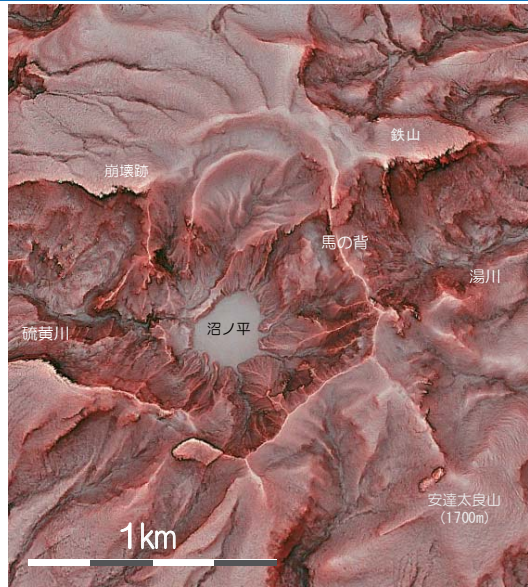


安達太良山の過去の火山活動



沼ノ平火口の地形

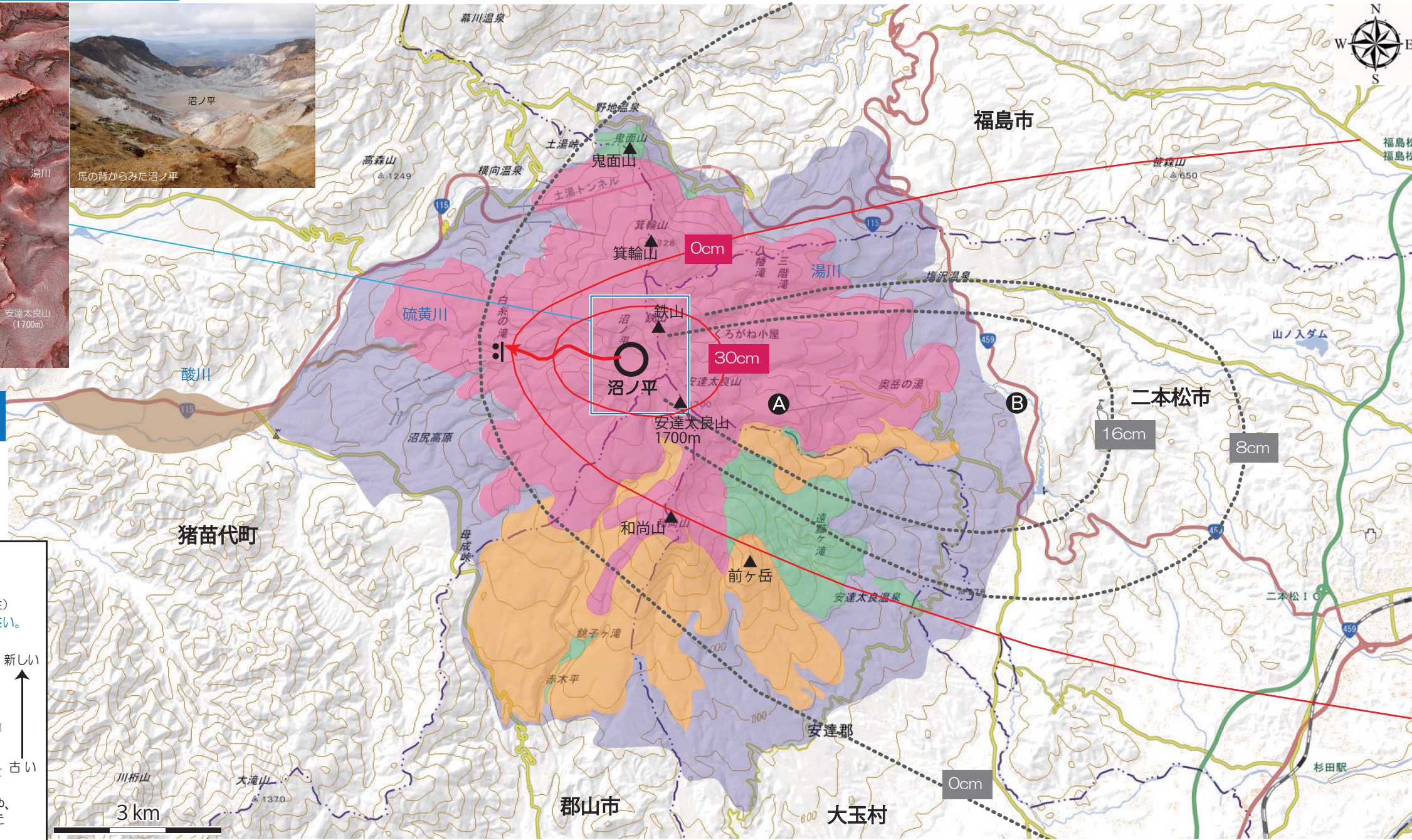
西麓に多い火口湖由来の火山泥流堆積物

かつて沼ノ平では火口湖由来の火山泥流が何度も発生して硫黄川を流れ下ったため、西麓に火山泥流の堆積物が多くみられます。



沼ノ平

馬の背から見た沼ノ平



図中の色の意味

- 火口湖由来の火山泥流堆積物 (最近の2500年間に7回以上発生) [5ページを参照してください。](#)
- 第3期 安達太良山の噴火活動 第3期 (約25万年前～現在) **新しい**
- 第2期 第2期 (約35万年前ころ) 第3期の噴出物に覆われていて一部しか確認できません。
- 第1期 第1期 (約55～44万年前) **古い** 第2期・第3期の噴出物に覆われていて一部しか確認できません。
- 土石流などによる山麓の堆積物や、安達太良山の噴火活動に先行した古い火砕流堆積物

東麓に多い火山灰などの堆積物

安達太良山は噴火のたびに火山灰を何度も放出してきました。このため主に風下側にあたる東麓には火山灰が堆積した様子が多く見られます。

矢印は沼ノ平火口から噴出した火山灰の層



A地点 水蒸気噴火による火山灰 (ロープウェイ山頂駅付近)



B地点 マグマ噴火や水蒸気噴火による火山灰 (岳温泉4丁目付近)

図中の線の意味

- 1900年(明治33年)噴火の火山灰分布範囲と厚さ
- 火砕サージの流下方向
- 安達太良山の過去1万年間の噴火で最大規模の火山灰分布範囲と厚さ (約1万年前に噴出した火山灰の例)

安達太良山の形成の歴史

第3期 現在もこの第3期に含まれます。約25万年前～20万年前の噴火活動で、箕輪山や安達太良山などの山体ができました。静穏な時期をへさんで12万年前以降は沼ノ平火口付近から爆発的な噴火が繰り返し起きて、大量の火山灰などが風下側の東麓に積もりました。

10万年程度の休止期

第2期 約35万年前ころの噴火活動によって、南部の和尚山付近の山体が形成されました。

10万年程度の休止期

第1期 約55万年前～44万年前の噴火活動によって、北部の鬼面山や南東部の前ヶ岳付近の山体が形成されました。

近年(明治以降)の火山活動

年代	現象	活動経過・被害状況等
1899年 (明治32年)	水蒸気噴火 (降灰、噴石)	火砕物降下。噴火場所は沼ノ平火口。年初頃から火山活動が活発化し、噴気孔数、噴気量増大。8月24日に沼ノ平内の噴気孔から大音響とともに火炎を噴出。25日噴気孔縁を破壊し、灰や硫黄泥を噴出。11月11～12日にも同一地点で黒煙や石を噴出。
1900年 (明治33年)	水蒸気噴火 (降灰、噴石、火砕サージ)	火砕物降下、低温の火砕サージ。噴火場所は沼ノ平火口。7月17日噴火。熱灰や石を噴出。噴出物総量 $1.1 \times 10^6 \text{m}^3$ 。沼ノ平に長径300m、短径150mの火口を生じた。火口の硫黄採掘所全壊。死者72名、負傷者10名。山林耕地被害。
1950年 (昭和25年)	噴煙	2月25日。噴煙高度50m。
1995年 (平成7年)	火山性微動	10月27日、および11月10日。
1996年 (平成8年)	泥水噴出	6月、沼ノ平中央部で泥水の噴出を確認。以降、地熱活動が徐々に活発化し、噴気や地熱異常域が拡大。沼ノ平中央部で泥水の飛沫が直径約100mの範囲で確認。聞き取りにより、泥の噴出は9月1日頃と推定される。
1997年 (平成9年)	火山ガス	9月、沼ノ平火口内に火山ガスによる死亡事故。死者4名。
1998～2003年 (平成10～15年)	地熱異常、噴気、泥水噴出	地熱活動が活発化。1999年(平成11年)4月27日に沼ノ平中央部で泥水の噴出を確認。沼ノ平で一時的に高さ300mの噴気を観測した他、2001年(平成13年)9月の現地観測で新たな噴気孔を確認するなど、噴気活動が活発化。

日本活火山総覧(第4版)(気象庁編2013)を基に編集

1900年(明治33年)の噴火

1900年(明治33年)7月17日の噴火によって、当時火口内で硫黄採掘および硫黄精錬所で働いていた人に甚大な被害が発生しました。当日16時ころに小爆発が1回、18時頃からの30分間に3回の爆発が起こりました。このうち一番大きな3回目の爆発の際に逃げ遅れたり、逃げずに火口底にとどまっていた人が被災しました。このときの噴火では火口の西側にある硫黄川沿いに火砕サージ(熱い火山灰や泥が混じった横なぐりの疾風)が発生し、巻き込まれた人が死亡・負傷(疾風中の高温の泥土による重度の火傷を含む)しました。この噴火によって、沼ノ平には長径300m、短径150m、深さ約30mの火口が形成されました。この火口の底には18個の噴気孔が出来て活発な噴気が続きました。また、一部の噴気孔には貯水がみられたと記録されています。



火山灰で押しつぶされた住居の屋根の跡(沼ノ平火口内)



1900年(明治33年)7月17日の噴火で放出された火山灰等の推定分布範囲